

惜別の辞

吉岡幼稚園の閉園にあたり感謝と惜別の気持ち
を込め、ご挨拶を述べさせていただきます。

吉岡幼稚園の閉園は、私にとりましても感慨深
いものがあります。昭和二十六年、吉岡村洋裁講
習所が設立され、教員となった母の赴任と共に、
現在の吉岡幼稚園の場所に住まいしておりました。

昭和二十九年の洞爺丸台風。恐ろしく、うなる
強風の中、母にしがみついて避難したことも思い
出しますし、周辺の山や川で夢中になって遊んだ
記憶も鮮明に残っております。

今年の十一月十八日、吉岡幼稚園として最後の
おゆうぎ会を見させていただきました。歌に合奏、
遊戯に劇と、かわいい九人の園児たちが、一人
何役にも奮闘、出来栄えに感心しながら、会場一

杯の笑いもあり、走馬灯のように甦る感慨深い想
い出の中、楽しく見させていただきました。

案内をいただき、入園式、運動会、おゆうぎ会、
そして卒園式と伺いましたが、園児たちは、いつ
もニコニコ笑顔で、ひとみがキラキラ、元気いっ
ぱいの「吉岡っ子」でした。

元気はつらつ、しっかりと楽しくお話しができ、
明るい笑顔が清々しく、心あられる思いをする
事も度々でしたし、園児達を思う先生や父母のお
話に涙腺が緩む事もありました。

吉岡幼稚園は、地域の人たちに、園児や先生の
顔が見え、地域と連携して子どもたちの個性を大
切にする園であったと思いますし、園と、家庭、
地域が一体となった取り組みは、幼児教育の理想
の姿を見る思いを致してもおりました。

園の存続にご尽力いただいたお母さんたちの熱
意は、福島における「幼児教育の在り方」に一石

を投じ、四月からスタートする「認定こども園」を検討する大きなきっかけともなりました。

過疎・少子化は、時代の流れとはいえ、大きな変革に翻弄され、適切な対策が叶わず、結果として閉園する事は、非常に複雑な心境であり、町政運営の一端を担う者としてその責任を痛感いたしております。

地域の幼児教育に大きな足跡を残してきた吉岡幼稚園は、多くの皆様が、献身的な協力と努力を重ね、営々として築き上げてきた誇り得る園史を閉じる事となりました。

巣立っていった多くの卒園児、在園児や地域父母、そして教職員の皆様には、語り尽くせない万感の思いがあると思います。

園の運営にご尽力いただきました皆様に敬意の気持ちを含めて、心から感謝と御礼を申し上げます、

無限の可能性を秘めた吉岡の子どもたちが、「吉岡っ子」らしく、未来に向かって大きくはばたく事を心からご祈念し、「ありがとう吉岡幼稚園」の気持ちを含めて惜別の辞といたします。

平成二十五年三月十九日

福島町議会議長

溝部 幸基